



2019 年
企業の社会的
責任に関する
レポート



今と夢のあいだをつなぐ。





「橋」は私たちをつなぎ、引き上げ、まだ見たことのない場所へと連れて行ってくれます。橋があれば、誰かが取り残されることもありません。

橋の向こう側では、これから始まる物語が私たちを待っています。シスコは、テクノロジーによってすべての人が成功できる、インクルーシブな未来を描いています。シスコの人材、ソリューション、投資によって、これが現実のものになろうとしています。

デジタルディバイド（情報格差）とインクルーシブな未来のあいだをつなぐ。

2019 年度の CSR レポートで、シスコが築くかけ橋についてご覧ください。

このレポートでは、2019 会計年度のシスコの CSR 目標とプログラムの進捗状況について説明します。レポートの第 1 部「シスコの事例」では、過去 1 年間におけるシスコの主な成果を紹介します。レポートの第 2 部 [【詳細】](#) では、シスコのすべての CSR イニシアチブについて、主要なメトリックを含めて詳しく説明します。



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs



Chuck Robbins からの メッセージ

過去 35 年間にわたり、シスコはイノベーションを実現し、さまざまなつながり方を見直し、可能性の限界を押し広げてきました。シスコはインターネットの構築に貢献し、インターネットはすべてを変えました。今やあらゆる人とモノがつながることで、創造的なコラボレーション、スマートシティ、教育、医療などの無限の可能性が開かれています。この数十年の間に、テクノロジーは驚くべきことを実現し、世界の認識を変革し、非常に多くの人々の生活を向上させてきました。

しかし、このような進歩と繁栄の一方で、依然として多くの人々が苦しみ、不平等による格差が広がっています。世界の人口の約 10% が、1 日 2 ドル未満で生活しています。このような人々は、最低限の生活を営むことさえ困難で、デジタル革命の恩恵を受ける余裕などありません。こうした不平等は解決可能ですが、そのためには政府機関、コミュニティ組織、民間部門が連携して、効果的で持続的な影響をもたらす必要があります。

シスコでは、テクノロジーの支援によりあらゆる人が能力を発揮し、より良い世界が創出される未来を築きたいと考えています。

シスコは、社会の最大の課題に対する解決策を見つける上で、当社のイノベーション、専門知識、企業文化が役割を果たす大きな機会があると考えています。そのための取り組みは、デジタル化の目標達成に向けた政府との協調、データのセキュリティとプライバシーの推進、次世代の人材に対する支援など、さまざまな形で実行されています。シスコは、世界的な飢餓の撲滅に取り組む社会投資パートナーから、シリコンバレーのホームレス問題に取り組む非営利団体まで、熱心な人々と協

力し、最も必要としている人々にシスコのテクノロジーと専門知識を共有することにより、驚異的な力を生み出すことができると考えています。シスコ社内では、企業文化を変革し続けています。組織全体で多様性とインクルージョンを推進し、環境への影響を削減できる持続可能な事業活動を実施しています。また、ボランティア活動のための休暇や寄付プログラムを提供することで、従業員が世界に貢献することを奨励および促進しています。

シスコは以前から、社会的責任は当社の全体的なビジネス戦略と不可分であり、健全なビジネスと健全なコミュニティの間に明確な関連性があることを理解しています。これらは相反するものではなく、両立可能です。今こそ私たち全員がこのことを認識し、インクルーシブな経済と文化を形成して、すべての人の機会を拡大するために連携することが、これまで以上に重要になっています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長兼最高経営責任者

Chuck Robbins

- 2019 年度の Cisco Networking Academy に 180 ヶ国 215 万人の受講者が参加し、2020 年までにこのプログラムで年間 200 万人の受講者を集めるという目標を上回ることでできました。
- 4 億 6,900 万人が、シスコの助成金投資と独自プログラムの恩恵を受けました。
- 従業員の 51% が 2019 年度に寄付またはボランティア活動を行いました。
- 地球温暖化ガス排出量の削減、再生可能資源からの電力の使用増加、製品のエネルギー効率向上の 2022 年度目標に向けて前進しました。
- このレポートでは、シスコの活動の詳細と、国連グローバルコンパクトに示された普遍的な原則に対してシスコがどのように責任を果たすかについて説明します。



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

かけ橋を 築くための ブループリント

シスコの広報担当シニアバイスプレジデントである Tae Yoo は、当社の社会的投資を主導し、CSR と社会的インパクトを担当しています。ここでは、2019 年度におけるシスコの CSR に関する哲学、プロセス、成果に対する彼女の见解を紹介しします。

Q : シスコの CSR および社会的インパクトの理念はどのようなものですか。

A : それは「希望と可能性のあいだをつなぐ」というシスコの目的そのものです。人々、社会、地球にとって新たな可能性を生み出すために、シスコは CSR と社会的インパクトがビジネスと一体化した包括的なアプローチを取る必要があります。シスコは、シスコのテクノロジーの力と従業員の専門知識を活用して、グローバルな問題解決を加速し、社会と環境により多くの利益をもたらそうとしています。CSR の優先事項には、さまざまなビジネス部門が実施するものもあれば、広報部が推進するものもあります。



すべては継続的なビジネス戦略と長期計画に統合され、影響力を最大限に発揮できるプログラムとパートナーシップに焦点が当てられています。

Q : CSR は多くの組織および関係者にとって、最優先事項となっています。このことはシスコの CSR および社会的インパクトのある戦略とプログラムにどのような影響を及ぼしていますか。

A : 幸いなことに、シスコにとってそれほど影響はありません。シスコは常に社会に貢献し、よい影響を与えるよう努めてきました。これはシスコの文化の一部であり、すべての行動に織り込まれています。1997 年に世界最大で最も長く実施されている CSR 教育プログラムである Cisco Networking Academy を立ち上げ、2006 年には最初の地球温暖化ガス排出削減目標を設定しました。シスコは、コミュニケーション方法を含め、長年にわたって学習と進化を続けてきました。投資家、お客様、従業員、採用候補者など、シスコの CSR と社会的インパクトのある活動には、より多くの関心が寄せられています。現在、データと体験談を通じて、

行動と影響力の関係についてシスコの関係者に説明し、関係者のみならず幅広い人々にグローバルな問題の解決をサポートするよう呼びかけています。

Q : シスコは、2025 年までにデジタルソリューションにより 10 億人にプラスの影響を与えるという意欲的な目標に向けて、大幅な進展を遂げました。シスコは測定を重視し、2019 年度に進捗状況の評価方法を見直しました。本年度の変更点について教えてください。

A : パートナーとシスコの両方が利用できるデータが増えたため、レポート方式をより保守的なものに改良しました。レポートの一貫性を保つために、改訂後の方式に合わせて前期の数字を修正しました。改訂後の方式では、2016 年度、2017 年度、2018 年度にプラスの影響を受けた人数はそれぞれ 1 億 1,800 万人、1 億人、1 億 2,300 万人です。さらにシスコでは、今日までの累計数に対し外部限定保証を行っています。こうした取り組みを通じて、シスコがパートナーシップを通じて与えている影響について、関係者にさらに高い透明性を提供することを目指しています。2019 年度に 1 億 2,800 万人に影響を与え、これで累計対象者数は 4 億 6,900 万人（2025 年の目標の 47%）に達しました。目標の 10 億人達成およびそれを上回る成果が大いに期待されます。

目標達成に向けた 取り組み

目標を明確にすることで、最も重要なことに注力できます。2019年度は、期日に先がけて複数の目標を達成できたことを誇りに思うと同時に、さらに高い目標を設定してすでに取り組んでいます。また、定期的に目標を評価して、予定どおりに達成できているかを確認しています。その結果、いくつかの目標に関して進捗の追跡方法を調整しました。



シスコの事例



CEOからの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

目標達成

目標

2020年までに Cisco Networking Academy の年間受講者数 200万人を達成する。

215万人 2019年に達成した受講者数

新しいパートナーシップの締結および新しい国への拡張により、受講者が拡大しました。

目標

2012～2020年度に、サプライチェーンにおいて地球温暖化ガス排出量を100万トン削減する。

115% 目標達成率

組織全体のサプライチェーンにおけるスマートな意思決定により、2020年度の期日前に目標を達成し、目標値を上回ることができました。

目標

2020年までに80%の従業員がコミュニティにインパクトを与える活動に参加（関心のある理念への賛同、ボランティア活動、寄付、コミュニティにプラスの影響を与えるプログラムへの参加など、従業員の行動を測定して評価）。

51% 2019年度の時点で関与した従業員の割合

従業員の活動が多様でこの目標では完全に補足できないため、アプローチを調整しました。詳細はこちらをご確認ください。

目標

社会的インパクト助成金と独自のプログラムを通じて、2025年までに10億人にプラスの影響を及ぼす。

4億 2019年度時点でプラスの影響を受けた人数
6,900万人

追加データへのアクセスにより、影響の報告方法を改良しました。変更内容についてはこちらをご覧ください。

進行中

新規

2020年のサプライチェーンの地球温暖化ガスに関する目標を完全に達成できたため、シスコのサプライチェーン関連のスコップ3における地球温暖化ガス排出量を、2030年度までに絶対値で30%削減するという新たな目標を設定しました（2019年度を基準年とする）。詳細はこちらをご確認ください。



インクルーシブな文化とのあいだをつなぐ

シスコでは、社会的障壁をなくし、多様な人材を育成し、倫理的な職場を構築しています。シスコ社内だけでなく、世界中の人々の機会を創出するためのインクルーシブな活動とパートナーシップをサポートしています。その結果、従業員の間で Conscious Culture(お互いへの影響し合う文化)が芽生え、やがて世界中の人々にその恩恵を及ぼすことができます。

Conscious Culture(お互いへ影響し合う文化)とは、自己理解、他者への理解、自分が他者(チーム、お客様、より大きなコミュニティ)にもたらす影響に常に目を向け理解し、意図的に行動することによりより最高の体験を生み出すこと



「共感を示しましょう。お互いに親切にしましょう。好奇心を持ちましょう。学び続けましょう。そして最も重要なことですが、行動を起こしましょう。それはConscious Culture(お互いへの影響し合う文化)における私たちの仕事です。何かが起こったとき、または何かを目撃したとき、私たちは行動します。そうすることで、全員のために文化を変えることができるのです」

エグゼクティブバイスプレジデント兼最高人事責任者
Francine Katsoudas



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球



シスコの文化を 次のレベルに

企業の文化は最大の資産になりえます。残念ながら、文化が機能していない企業は至るところに存在します。非倫理的な行動、差別、嫌がらせなどの問題を抱える職場。本音を話すことを恐れる従業員。

シスコは新しい基準を設定し、より良い職場を作るための価値と行動の強化を支援しようとしています。2019年度、シスコは強固な基盤を足がかりに、新しいフレームワークを使用して文化を定義することを始めました。シスコではこれをConscious Culture(お互いへの影響し合う文化)と呼んでいます。これは次の3つの要素で構成されています。

- ・ **風土** 人、社会、地球にプラスの影響を与える、インクルーシブで多様性のある風土。
- ・ **特徴** 独自の信条、行動、原則など、私たちの文化の典型的な特徴。
- ・ **エクスペリエンス** 人々がリーダーや同僚との間で行う日常的なやり取り。

多くの企業は、文化の3つの側面のうち1つにのみ注力しています。シスコが他社と異なるのは、この3つの要素を一体のものとして考えるところです。また、この文化では何が機能して何が機能しないか、それを

どのように改善できるかについて「意識的」に認識し、責任を持ちます。シスコでは、マネージャによる嫌がらせや行動規範の違反などを目撃または体験した従業員は声を上げます。

従業員は、専門チームに懸念事項を伝えることで、シスコの文化を守ることができます。Conscious Culture(お互いへの影響し合う文化)の導入の一環として、従業員が報告した懸念事項(いじめや他の否定的行動などの問題)に関するメトリックを社内で共有しました。今後6ヵ月ごとに共有するとともに、懸念事項がどのように対処されているかについてもお知らせする予定です。

しかし、Conscious Culture(お互いへの影響し合う文化)は、懸念事項に対処すれば築けるものではありません。シスコの従業員の働き方やコミュニケーションの仕方のあらゆる側面に影響を及ぼします。現在、シスコのビジネス部門全体で、Conscious Culture(お互いへの影響し合う文化)を実践する方法について検討しています。このプロセスが進むにつれ、従業員エンゲージメントが向上し、結果としてお客様やコミュニティのエクスペリエンスも向上します。



シスコがConscious Culture(お互いへの影響し合う文化)を全社的に適用している様子をご覧ください。





恥の意識の払拭

シスコはこの1年間、メンタルヘルスについて語ることのタブーをなくし、サポートを求めるよう従業員に奨励することを最優先に取り組んできました。すべては、1通のメールから始まりました。2018年、社会でメンタルヘルスに関する懸念が高まる中、シスコ CEO の Chuck Robbins は、シスコの全従業員にメールを送信し、苦境に立たされている人々に対するシスコの懸念を表明するとともに、誰も1人で立ち向かう必要はないという考えを共有しました。

反響は圧倒的でした。Robbins は従業員から100通以上の返信を受け取り、その中には感謝の言葉や、従業員自身やその家族の事例が書かれていました。それ以来、さらに多くの従業員が、シスコのブログ記事や Cisco Beat で個人的な苦闘について勇気を持って語ってきました。

この反響により、シスコは対処する必要のある問題に気づきました。統計によると、米国では約5人に1人の成人が、メンタルヘルスに問題を抱えています。しかし、多くの人々は依然として、これらの問題について語ろうとしません。シスコはこの沈黙を破ろうとしています。問題を抱えていても大丈夫であるということ、全員に知ってほしいのです。メンタルヘルスを損なうことを恥と考える風潮をなくし、提供するリソースを増やすことで、人々が必要な支援を受けることを奨励したいと考えています。そして、業界全体でメンタルヘルスに対する考え方を変革していきます。



メンタルヘルスイニシアチブ

- ・米国最大規模のシスコの医療プランで、ケアを受けやすくします。従業員は、メンタルヘルス治療のネットワークを利用するかどうかにかかわらず、同じ保険料を支払うことになります。
- ・グローバルな従業員支援プログラムの一環として、カウンセラーとの面談（24時間365日対応、秘密保持）と、LifeConnections Health Center での個別面談を提供します。シスコは、米国における無料訪問の回数を、他国の提供回数に合わせて10回に増やしました。
- ・シスコのコラボレーションテクノロジーを使用して、カナダの遠隔地の、十分なサービスを受けていないコミュニティにメンタルウェルネスプログラムを提供する **Connected North** の創始者として、サポートを継続します。

認識を深める

- ・シスコのイントラネット上の Safe to Talk コミュニティには、ビデオ、内部および外部リソースへのリンク、従業員の事例が含まれています。
- ・「リーダーの日」に、シスコの全リーダーを対象として、精神疾患の兆候を見つけてチームをサポートする方法についてのトレーニングを提供しました。
- ・シスコの CEO は、この問題の重要性について公の場で書き、話し、ツイートしてきました。
- ・英国では、メンタルヘルスの「応急対応の担当者」が、同僚がリソースにアクセスするのを支援しています。



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

橋をかける 人々

希望と可能性のあいだのかけ橋は、正しい場所を探せばすぐに見つかります。シスコの新しい Bridge Award は、シスコの目標を体現している従業員、つまり「かけ橋になる」ことの意味を真に理解して実行している従業員を見つけることを目指しています。

300 以上の候補者が登場し、私たちは彼らの行動に触発されました。彼らの所属する拠点やチームはさまざまですが、ある性質を共有しています。それは、プラスの影響をもたらすという、情熱と意欲です。

これらの驚くべきシスコの従業員は、可能性へのかけ橋を築くことに熱中しています。第 1 回 Bridge Award の受賞者を何名か紹介します。コンテストの詳細については [65 ページ](#) をご確認ください。



Daud Yamin の家族はパキスタンの農村部で診療所と学校を開設し、現在約 800 人の子供たちがそこに在籍しています。彼の次の目標は、子供たちがテクノロジーの世界で未来を実現できるように、Cisco Networking Academy を設立することです。

= アイコンをクリックしてビデオを観る



2015 年の難民危機の間に、100 万人以上がドイツに逃れました。Claus Schaale は彼らを支援したいと考え、何百時間も費やして難民にデジタルスキルを教え、仕事を見つける手助けをしてきました。



Vanessa Russell の学生の 1 人が人身売買の被害者になったとき、彼女はコミュニティミーティングを開きました。その後非営利団体を設立し、現在フルタイムで運営しています。そこで多数の女性と子供を保護し、数百人の人身売買被害者を救出してきました。





シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人




社会



地球



 Destination: Home が Sal や Elaine のような人々を支援している様子をご覧ください。

家と呼べる場所

米国では毎晩、50 万人以上のホームレスが路上で眠っています。さらに多くの人々が、ホームレスになる恐れがあります。給料の不払いや予期しない医療費が 1 回発生するだけで、路上で過ごすことになるかもしれないのです。Sal Sanchez と Elaine Sanchez も、そのリスクに直面しました。Sal はかつて、シリコンバレーで配管工事業を営んでいました。仕事は順調でしたが、彼が怪我をしてから負のスパイラルが始まりました。夫婦は最終的に 8 年間もホームレスを経験しました。

シスコは、身近で増えつつあった、こうした深刻な不平等の危機に対処するために動きました。2018 年、シスコは Destination: Home に対し、5 年間で 5,000 万ドルを寄付することを約束しました。これにより、公的資金の投入が促進され、Supportive Housing & Innovation Fund の立ち上げにつながりました。このファンドは、住宅供給と他の社会福祉を組み合わせた支援住宅の建築をサポートし、カリフォルニア州サンタクララ郡で人々がホームレスになるのを防止するプログラムを拡充しました。Sal と Elaine は、サンノゼ初の支援住宅団地の新しい居住者の一員でした。

シスコは、他のコミュニティに存在する Sal や Elaine のような人々を支援するために、この取り組みを拡張しています。2019 年度、シスコはホームレスが増加しているイタリアのローマにおける住居支援プロジェクトをサポートするために、4 年間で 100 万ドルを提供することを発表しました。イタリアのシスコチームは、Comunità di Sant'Egidio と fio.PSD という、実施を担当する 2 つのパートナーと緊密に連携し、運営のサポートと拡張に必要なテクノロジーを提供しています。

Destination: Home とのパートナーシップにより、初年度から次の進展がありました。

1,200
以上

住宅開発業者に対するサポートを通じて建築される住宅数

841

Destination: Home とそのパートナーによるホームレス防止プログラムを通じて支援される家族や個人の数

71%

防止プログラムの参加者のうち、申請後 72 時間以内に資金援助を受けた人の割合

95%

防止サービスを受けている間安定して住宅に住み続けた家族の割合

APPX

GRI

UN
SDGs



インクルーシブな テクノロジーへの かけ橋

シスコは、インターネットの基盤を築いてきました。すべての人とモノがつながる時代を迎えた今、シスコは再びネットワークの未来を形成しています。このプロセスにおいて、シスコは30年以上にわたって学んできた教訓を踏まえて、セキュアで利用しやすく、人々を結び付けるテクノロジーを構築しています。



データがさらに便利かつ重要になる中で、利便性がプライバシーよりも優先されることがあってはなりません。2019年度、CEOのChuck Robbinsは、プライバシーを基本的人権として尊重する包括的な法律の制定を呼びかけました。人権とデータプライバシーの保護に関するシスコの取り組みについてはこちらをご覧ください。



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

シスコのテクノロジー によるインクルーシブ な未来の構築

これまでつながっていなかったものをつなげることで、驚くべき成果を実感できます。シスコは、すべてをつなぐテクノロジーを開拓してきた経験から、当然このことを知っています。その中で、最も差し迫った課題を解決するための潜在力を引き出してきました。ここでは、シスコ製品が世界を小さくすることで、多くの潜在力を引き出している例を紹介します。

アクセシブルなテクノロジー

視覚、聴覚、身体が不自由な人々によるコミュニケーションとコラボレーションを支援するソリューション。Cisco IP Phone 8800 シリーズは、テキスト読み上げ機能が組み込まれた最初のエンタープライズ デスクフォンです。この製品は、連邦通信委員会から Chairman's Award for Advancement in Accessibility を受賞しました。

データ保護

シスコのサイバーセキュリティソリューション スイートは、有害で多大なコストのかかるサイバー攻撃に対してお客様の脆弱性を軽減します。

災害救助

Cisco Meraki のクラウド制御ネットワークにより、災害時の接続を支援します。

遠隔医療

遠隔医療アプリケーションにより、どこにいても、必要なケアを受けることができます。

排出量の削減

Webex などのリモートコラボレーション テクノロジーが仮想ワークエクスペリエンスを創出して、出張の必要性を低減します。

スマートシティ

IoT ソリューションは、センサーと高度なデータ処理を活用して都市と企業の持続的な成長を支援します。

野生生物の保護

Open Conservation パートナーシップにより、IoT を使用して絶滅危惧種を追跡しおよび保護します。



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

スキルとキャリア のあいだをつなぐ

機会を提供することで、生活やコミュニティを変えることができます。Cisco Networking Academy は、教育者、政府機関、雇用主と協力して、世界中の誰もがデジタルスキルを学ぶよう、何百万もの人々に機会を提供しています。将来の人材は、今までの人材とは違います。新しいテクノロジーの採用によって大規模な成長が見込まれ、2022 年までに 1 億 3,300 万以上の新しい職務が生まれると予測されています¹。

そのために、Networking Academy ほどタイムリーで関連性の高いプログラムはありません。大学、コミュニティカレッジ、刑務所など、何千という従来型および非従来型の学習組織と連携して、従来の職種から IT に精通した需要のある職種への転換を支援しています。これらの教育パートナーに最高クラスのカリキュラムを無償で提供することで、あらゆる人々に、より多くのキャリアの可能性をもたらしています。

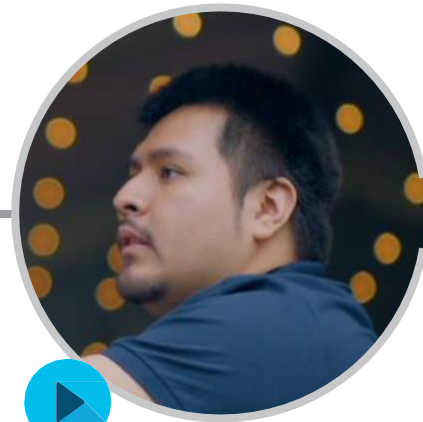
人生を変える可能性のある Networking Academy の詳細について、受講者の体験談をご覧ください。

▶ = アイコンをクリックして
ビデオを観る



▶ 「本を読むだけではありません。実際に自分の手で設定し、現場で直面するのと同じ状況に取り組むことができるため、キャリアの準備に役立ちました」

Megan Chapman、Networking Academy に触発されて IT 業界の女性を支援するノースカロライナ州の IT プロフェッショナル



▶ 「私の生き立ちから、IT の仕事に就けるとは思っていませんでしたが、Cisco Networking Academy ですべてが一変しました」

Sergio Sales、メキシコから米国への移民の両親を持つ



▶ 「「私には無理かもしれない」と考えたこともありましたが、何かの後押ししてくれたのです」

Sara Martínez、メキシコのプエルト・バイタルの先住民出身で、学位を得るためにスペイン語を習得

¹ 「仕事の未来 2018」レポート、世界経済フォーラム



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

供給源の確認

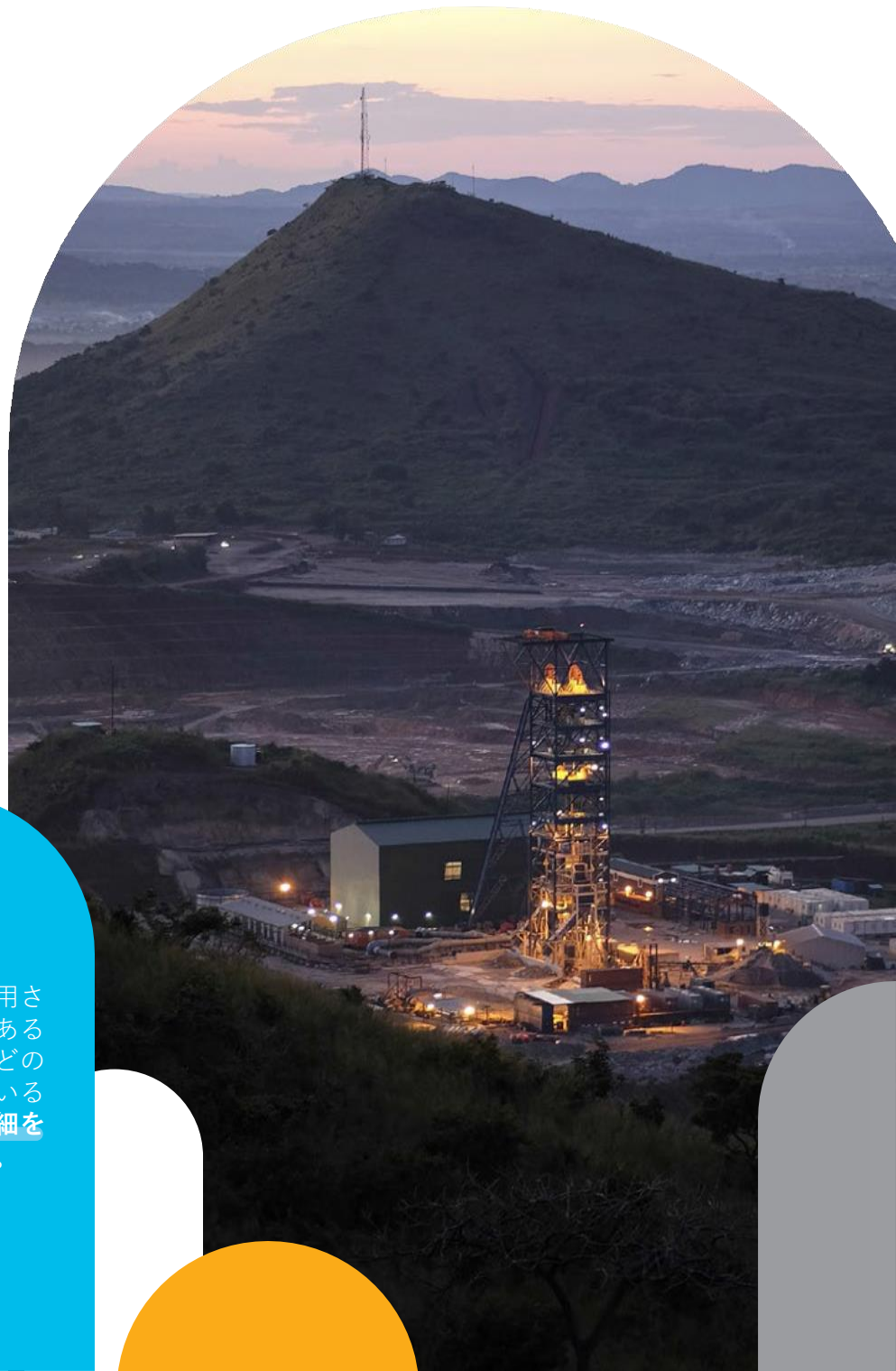
鉱山から採取された鉱石に価値があるのは、それが販売され、製錬されて新しい製品を作ることができるからです。しかし、鉱石の出所の背後にあるデータも鉱石の価値に含まれます。どこで、誰が採掘したか。鉱山、製錬所、工場など、どのようなルートで輸送されたか。

シスコのような企業では、タンタル、錫、タングステン、金などの鉱物を多くの製品で使用しているため、これらの質問は重要です。シスコは、サプライチェーンの鉱物に対する調査を継続的に行い、採掘と販売の過程で武装勢力や人権侵害の実行者に利益をもたらしていないことを確認しています。しかし現在に至るまで、鉱物の出所に関する正確なデータが不足していました。このデータがなければ、人権やその他の問題を、鉱山という発生源で解決するのは非常に困難です。

Transparensee プロジェクトは、この状況を変えることを目的としています。このアイデアは最初、革新的なタグ付け技術とブロックチェーン ネットワークを組み合わせ、採掘現場からシスコなど下流の企業まで鉱石の流れを追跡するシステムとして生まれました。このコンセプトを元にプロトタイプ構築を開始し、それをルワンダの採掘現場に導入し、政府、NGO、鉱山労働者自身からフィードバックを集めました。

この実地調査は、鉱山労働者を含むすべての関係者と協力してソリューションを設計することの重要性を教えてくださいました。シスコはこれらの教訓を生かしてプラットフォームの開発を継続し、データの透明性とセキュリティの適切なバランスを追求しています。他の国の試験でこのテクノロジーの実際の運用を見ることで、さらなる情報が得られるでしょう。鉱物サプライチェーンにおけるトレーサビリティツールとしてブロックチェーンを使用している様子については、最近の[シスコのホワイトペーパー](#)をご覧ください。

シスコ製品で使われる鉱物の責任ある調達をシスコがどのように確保しているかについての[詳細をご確認ください](#)。





食糧生産者への支援

シスコの事例



CEOからのメッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN SDGs

小規模農家は、世界の食糧の 80% 以上を生産しています。しかし、彼らは世界の最も貧しい人々の 80% を占めていて、そのためビジネスを成長させるためのリソースが不足しています。シスコの社会投資パートナーである Digital Green は、テクノロジーを使用してこの状況を変えようとしています。

この非営利団体は、小規模農家が農業慣行を改善して所得を増やす支援をするというビジョンを持って、2008 年に創始されました。彼らは、収量を増やす方法について農家と情報を共有するため、現地農家に関連するビデオを 50 以上の言語で何千本も制作することから始めました。

しかし、農家の所得を増やすためには、より多くのことが必要だと気づきました。食料の生産と同じくらい重要なのは、それを販売する場を確保することです。そこで、Digital Green は Loop というアプリを開発し、農家が農産物を集めて市場に出せるようサポートすることにしました。このアプリは学習アルゴリズムを使用して車両のルート設定を最適化し、農家が農産物を最適な価格で販売できるようにします。Loop では、次のようなことが可能です。



農産物のピックアップに配達サービスを予約する



農産物を最適化されたルートで市場に届ける



モバイルデバイスで支払いを受ける

シスコからの投資が、これを可能にしています。シスコは、Loop をサポートするために専用の資金を寄付した最初の企業でした。シスコの最近の助成金の支援によって、Loop から別の社会的企業が独立します。テクノロジーと草の根的パートナーシップを融合させることで、Digital Green とシスコは農家の貧困からの脱出を支援しています。



17%

Loop 使用後の農家総所得の増加率

シスコの戦略的な社会投資について詳細を読む

インクルーシブな 経済へのかけ橋

インクルーシブとは、世界がすべての人の共有物であることを認識し、その認識に基づいて行動することを意味します。シスコでは、天然自然と財源の使い方に配慮しています。デジタル経済に取り残された人々を特定し、パートナーと協力してインターネットの力を活用しながら、すべての人が経済的に繁栄できるような新しい道筋を生み出します。



シスコは、当社の行動がより広範な経済圏において、どのように資源の需要を形成しているかを認識しています。水が不足しているインドでは、**水の使用**をより適切に管理する方法を模索しています。また、太陽光、風力、電池貯蔵を組み合わせて投資することで**再生可能エネルギーの拡張**を支援するとともに、送電網にキャパシティを追加するプロジェクトを優先します。



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

テクノロジーを通じた 経済の変革

接続性が高まることで、競争が激化します。データとテクノロジーの進歩の結果、デジタル能力の有無による新しい種類の経済格差が生まれる可能性があります。

シスコは、より多くの国や州が前進するのを支援したいと考えています。シスコでは、Country Digital Acceleration (CDA) プログラムを使用してこの取り組みを進めていますが、これはシスコの **Digital Readiness Index** から得られた調査結果に基づいています。CDA を通じて政府、業界、学界と協力し、テクノロジーによって仕事を創出し、イノベーションを生み出します。これまでに運輸、スマートシティ、医療、サイバーセキュリティ、教育などの分野で、進行中と完了済みを含めて 370 に及ぶプロジェクトを手がけました。

シスコはパートナーシップを始めるにあたり、まず国や州のリーダーと会い、シスコの能力と人々のニーズが一致する地点を見つけます。次にシスコはテクノロジーと、それと同様に重要な知識を提供します。シスコは、コミュニティにおける次世代の IT プロフェッショナルの教育を、以下の方法で支援します。

- ・ **Cisco Networking Academy** 受講者に、急速に成長する IT 業界の現場で通用するスキルと仕事上の人脈を提供します。
- ・ **イノベーションセンター** 地域のイノベーションエコシステムの拠点となり、イノベーターがアイデアを交換できるスペースです。
- ・ **大学への投資** シスコのイノベーションを促進するとともに新しいアイデアにアクセスするためのスポンサーシップです。



プログラムによる環境の持続性の促進

国が成長して発展するにつれ、通常は環境汚染も進行します。シスコはパートナーと協力し、デジタル化と IoT ソリューションを都市に適用することで、この悪循環を断つことができます。例：

- ・ パリのスマート パーキング ソリューションにより、渋滞が **30%** 削減
- ・ ラスベガスでは、センサーを使用して、公共交通機関の停留所に需要に応じて自動運転シャトルを走行させるサービスを検討中
- ・ ルーマニアのブカレストでは、**LED** やモーションセンサーなどのスマート照明を使用して **75%** のエネルギー節約を達成



シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

貧困撲滅運動の推進

シスコはテクノロジー企業として、そのスキルと能力を他の人々と共有することにより、インクルーシブな未来を創出できる立場にあります。シスコは、国際的な貧困撲滅組織である Global Citizen との新しいパートナーシップを通じて、若者に現状を変えるためのツールを提供しています。

Global Citizen は、極度の貧困の撲滅活動などを通じ、世界に前向きな変化をもたらすよう人々に働きかけています。この組織は常に、テクノロジーによって前進してきました。嘆願書の署名、共有したツイート、接触したリーダーの記録にアプリを使用してきたのです。ユーザは、現在までに 2,480 万件以上の行動を起こしています。シスコのテクノロジーと専門知識の支援により、このプラットフォームはますます拡張していくでしょう。シスコは今後 3 年間、Global Citizen のフェスティバルやその他のイベントで、Wi-Fi テクノロジー、コンテンツ、ストーリーテリング プラットフォームを提供します。また、主要な寄付者、パートナー、アンバサダー、およびフェスティバルのキュレーターと Global Citizen をつなぐなど、組織のビジネスを推進するためのコラボレーションツールも提供します。

シスコと Global Citizen は共同でアワードプログラムを開始し、さらに多くの人々の参加を促そうとしています。2018 年 12 月に開催された南アフリカの Global Citizen のフェスティバルで、シスコ CEO の Chuck Robbins が、国連の持続可能な開発目標を 1 つ以上推進している 18 ~ 30 歳の対象者を表彰する **Global Citizen Prize: Cisco Youth Leadership Award** を授与しました。さらに、シスコの第 1 回 **Bridge Award** の受賞者が、このフェスティバルにエントリーされました。



「シスコはテクノロジーパートナーとしてまさに私たちの運動を支え、世界を変える組織としての私たちの能力を変革してくれます」

Global Citizen 共同創業者兼 CEO
Hugh Evans 氏



循環型経済に対するシスコの取り組みの拡大

シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球



APPX



GRI



UN
SDGs

循環型経済は、シスコ独自のビジネス変革の自然な延長線上にあります。企業として、製品のアップグレードサイクルから、継続的なクラウドコンピューティング、およびソフトウェア サブスクリプション モデルへと移行しています。これと同じ考え方で、テクノロジーを活用して、意図しない結果を招く一方通行の消費を抑制することを目指しています。

シスコは、ビジネスの成長を有限な資源の消費から切り離し、システムの無駄をなくす設計を実現し、再生可能エネルギーに移行することを目標に、循環型ビジネスの導入を加速しています。

シスコとサプライヤコミュニティのメンバー間の部門横断的な取り組みにより、これらの目標達成に向けて多くのプロジェクトが進行中です。そうしたプロジェクトには次のようなものがあります。

- **ノーペイントプロジェクト**。「ノーペイントプロジェクト」では、Catalyst 9200 および 9300L 製品で使用されるプラスチック製ベゼルへの油性塗料の使用を排除しました。この設計変更により、大幅なコスト削減、リサイクル性の向上、地球温暖化ガス排出量の削減、有害揮発性有機化合物の排除が可能になりました。
- **リサイクルプラスチック**。2019 年度、272 万台の IP Phone 7800 を 35% の再生材を含むプラスチックで製造することで、未使用プラスチックの使用を 456 トン以上削減しました。
- **再利用可能なパレットラップ**。また、出荷パレットの梱包方法を見直すことで、プラスチック廃棄物の削減に取り組んでいます。パレットで使用する使い捨てラップを、再利用可能なラップに交換しました。これによりコストを削減し、炭素排出を回避し、2019 年度に約 36 トンのプラスチック製ストレッチラップフォームが廃棄されるのを阻止しました。

シスコが循環型経済で優位性を推進する様子については、シスコの [Web サイト](#)を参照してください。





シスコの事例



CEO からの
メッセージ

詳細



ガバナンスと責任



人



社会



地球

APPX

GRI

UN
SDGs

リサーチトライ アングル パーク： 進捗状況の報告

2018 年、ノースカロライナ州リサーチ トライアングル パーク (RTP) にあるシスコのキャンパスで、2020 年度までに再生可能エネルギーに 100% 移行、ウォーターニュートラリティ (水の 100% 還元)、廃棄物ゼロを達成するという目標を発表しました。キャンパスが主要な研究大学に近接していることで、所有地で持続可能性の改善を試験できる理想的な場所となっています。2019 年度、シスコでは次のような進展がありました。



エネルギー

米国内のシスコの施設は、すでに 100% が再生可能電力でまかなわれています。シスコは RTP でこれを一步進め、キャンパス内の太陽光発電や Duke Energy 社の Green Source Rider Program への参加など、地域で発電された再生可能エネルギーを使用しています。シスコは、成長に合わせて地域の再生可能エネルギーをさらに多く購入することを検討しています。



水

シスコでは、水の使用量を減らす節水プロジェクトを通じて、水のフットプリントを管理しています。また、復元プロジェクトでは、ノースカロライナ州と南東部の淡水流域を復元しています。こうした取り組みを通じて、2020 年度にウォーターニュートラリティを実現できる見込みです。



廃棄物

キャンパスでは、生分解性の持ち帰りボックスや、再利用可能なカップやマグカップを使用して、プラスチック廃棄物を削減しています。2019 年 4 月以降、廃棄するプラスチック製品を毎週 1 万個以上削減しました。これにより、3 トンのプラスチックを節約しています。年間を通じて、廃棄物の 68% を再利用に回すことができました。



詳細については、**エネルギーおよび地球温暖化ガス排出量**を参照してください。

将来を見据えて

シスコはまた、さらに広範な環境負荷の低減にも取り組んでいます。シスコの地球温暖化ガス削減目標は次のとおりです。

60%

2022 年度までに削減するグローバル スコープ 1 および 2 の地球温暖化ガス排出量 (2007 年度基準)

85%

グローバルな電力需要のうち、2022 年度までに再生可能エネルギーの供給元から購入 (2007 年度基準)

30%

絶対値

2030 年度までに削減するシスコのサプライチェーン関連のスコープ 3 地球温暖化ガス排出量 (2019 年度基準)

©2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2020年3月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先

